

合唱を愛する皆さん、この春は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令に伴い、外出自粛・学校の休校・テレワークでの在宅勤務など、全国で厳しい日々を余儀なくされていることと思います。地域によっては措置緩和に向けた動きも出始めましたが、今までのような「普通の日常」に戻るには、今しばらくは慎重な対応をしつつ、緊張感のある生活を覚悟する必要があるでしょう。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、全日本合唱連盟ではすでに8月までの主催行事すべての中止を発表しておりましたが、このたび各方面との協議検討を経て、2020年の第73回全日本合唱コンクール全国大会（全部門）の中止を決定するに至りました。苦渋の決定です。

まさか「集まって声を合わせる事」そのものが困難になろうとは、このような理由で全日本合唱コンクール全国大会が中止のやむなきに至るとはまったく想定しておりませんでしたし、やるせない気持ちです。

長い議論を経て昨年ようやく船出することができた小学校部門を、2年目にして休まねばならなくなったことも悔しくてなりません。

また、中学生・高校生の皆さんは、学業と両立させながら部活動で合唱に情熱を注ぎ、「今年はこのメンバー」のサウンドを目指しておられたことでしょうかから、本年のコンクール中止には大きな落胆の声が上がると思います。特に最高学年の諸君にとってはこれまでの総括でもあり、責任と期待を持って今年のコンクールに懸けていただろうと思うと、私たちおとなは「仕方ない」では済まない気持ちです。なんとか皆さんの思いに応える手段はないかと話し合いを重ねましたが、残念ながら間に合いませんでした。中学生・高校生の皆さん、長い人生マラソンでは皆さんはまだスタートを切ったばかりです。どうか合唱を捨てないでほしいと願っています。

そして、慌ただしい日々の中でも「合唱すること」を喜びとして集まり、その成果を披露してくださっている大学職場一般部門。皆さんの個性豊かな歌声は、合唱界の潮流を示すものであると同時に、それぞれの団体が時間をかけて丁寧に積み重ねた人と人との繋がりがそのものです。今年はそれをお互いに聴き合うことができず寂しい限りですが、大切に温め続け、次の舞台でぜひとも花開かせてください。

合唱は、困難な時期に人の心を温めるものであり続けてきました。先の大戦の後でも、大震災や、各地で猛威を振るう自然災害の後でも、「今こそ音楽を、合唱を」と合唱の灯は絶えることなく、生きる喜びや明日への希望をつなぐ大きな力、心の糧となってきました。このコロナ禍の渦中にあってもそうした役割を果たすと信じています。

スポーツや音楽、芸術文化は、水や空気と同じように、国や世代を超えて人間にとって不可欠な栄養です。たとえ時間がかかっても、再び集まって歌い合える日は必ずやって来ます。今は、明るい未来を信じましょう。

2020年5月25日  
全日本合唱連盟理事長  
岸 信介